

1 はじめに

恵那市は岐阜県の南東部に位置し長野県、愛知県と隣接しています。面積は504.24km²と岐阜県内でも7番目に広い反面、人口は令和2年8月現在で49,415人と5万人を下回っており、過疎化・少子高齢化の問題が大きな課題となっております。

恵那市消防団は、団本部以下13分団に加え、消防音楽隊・女性消防隊で構成され、令和2年8月1日現在、基本団員907名、機能別団員213名の計1,120名が在籍しています。

本市消防団の特徴としてポンプ操作に

非常に熱心であることが挙げられ、岐阜県消防操法大会のポンプ車の部では、平成23年度から4連覇を成し遂げ、その間、全国大会への出場を2度果たしており、また、平成19年には、女性消防隊が全国女性消防操法大会において優勝を飾っています。しかし、一方で、新規入団数の減少はここ数年顕著であり、大規模災害時の活動において、マンパワー不足が大きな不安要素となっております。

2 「大規模災害分団」の創設

本市消防団は、災害発生時の情報収集部隊として、ドローン部隊（基本団員）及びバイク隊（機能別団員）を編成して



平成29年度導入ドローン（2機）
DJI社製 Phantom4、防災センターに配備



ドローン講習の様子（平成29年度）



チェーンソー取扱講習の座学（令和元年度）、
山間地を抱える分団を中心に11台配備



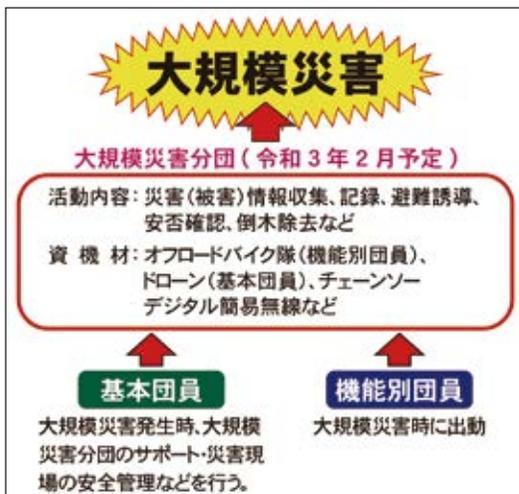
チェーンソー取扱講習の実技（令和元年度）



令和2年度導入オフロードバイク（2台）
 ヤマハ SEROW250：消防活動仕様
 （静岡県磐田市消防本部提供）

いますが、大規模災害発生時の情報収集能力の向上を図るため、令和2年度には、各分団に所属しているドローン部隊とバイク隊等を編入し、「大規模災害分団」を創設します。

当該大規模災害分団は、基本団員、機能別団員の中からドローン部隊、バイク隊、チェーンソー講習受講者、中型二輪免許取得者を中心に組織し、大規模災害発生時において、被害状況収集や記録、住民の安否確認、倒木除去によるライフラインの確保等が主な任務となります。大規模災害分団の創設により、これまでドローン部隊とバイク隊で別々に実施していた訓練を合同で行うことで、災害発生時にはより連携の取れた活動の実現が



期待されます。

3 大規模災害対応のための資機材の導入と加入促進

山間地を多く有する本市においては、大規模災害発生時には、道路寸断による孤立集落の発生が懸念され、安否確認や災害状況の把握の遅れなど、素早い対応が困難となるおそれがあることから、上記大規模災害分団の創設に伴い、大規模災害発生時に被害状況の情報収集や記録、安否確認の対応を早期に実施とすることを目的として、「消防団用オフロードバイク」の導入を予定しています。

道路に被害がおよび緊急車両が走行困難な状況においても、オフロードバイクの活用により、被害状況等の収集を効率的に行い、いち早い災害対策本部への被害状況と災害記録の提供を行うことができます。

当該オフロードバイクの導入に先立ち、平成29年度には、上空からの災害状況把握を可能にするドローンを、令和元年度には、倒木の除去を行うためのチェーンソー及び情報伝達手段としてデジタル簡易無線を整備していますが、これらを段階的に導入するに当たり、災害対応講習や消防基金の安全管理セミナーなども開催するなど、消防団員の災害知識と危機管理能力の向上にも努めています。

今回の大規模災害分団の創設や各種資機材の配備を通して、今後、バイクやドローンの愛好家や消防職団員OBとの情報交換や、各資機材について専門知識を持つ企業や団体との合同訓練を積極的に行い、災害発生時の消防団活動の大切さを伝えることで、大規模災害団員を含む消防団への加入促進を進めたいと考えています。